

# 都心にふさわしい図書館を考える懇談会 平成26年度第1回会議

## 議事録（概要版）

日時：平成26年8月26日（火）午後1時開会

場所：札幌市中央図書館 3階 研修室A

### 1. 開会

#### 2. 中央図書館長挨拶

##### ●江本中央図書館長

中央図書館長の江本でございます。大変お忙しいなか、皆様お集まりいただきましてありがとうございます。

この懇談会は、都心にふさわしい新しい図書館について、その機能やあり方についてのご意見をいただくという会議。ソフトの部分について、ご意見をいただきたい。

#### 3. 事務局からの説明事項

##### ●事務局（千葉調整担当課長）

当懇談会は、図書館協議会の専門部会的な位置づけとし、本日結果を図書館協議会にフィードバックして、さらに検討を重ねる予定。

2年前の懇談会で皆様からいただいたご意見を踏まえ、昨年5月に公表されたのが、市民交流複合施設整備基本計画。この計画で、複合施設の主にハードの面を明らかにした。さらに検討を進め、各施設のより具体的な事業展開を明らかにするため、今年度中に、管理運営基本計画を公表する予定。

#### 4. 委員紹介（原文）

##### ●猪熊委員

猪熊です。お久しぶりです。大通りを中心に活動していることもありますので、やはり大通、中心部で働く女性という観点でお話しさせていただければと思っています。よろしくお願いたします。

##### ●河村委員

河村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。2年前にこの会議でお世話になりました。専門は図書館情報学ということで、地域施設計画を専門にしているんですけども、こういうメンバーに加えていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

す。

●菊地委員

菊地でございます。お久しぶりでございます。よろしくお願いします。

私は新聞、テレビ、ラジオといったマスメディアでずっと仕事をしておりまして、現在は放送作家という仕事をしております。よろしくお願いします。

●豊田委員

お久しぶりです。豊田です。この4月から北海学園大学の非常勤講師をやるようになりました。学生の新鮮な意見に刺激されてきたので、またこの会議で皆さんと考えるのを楽しみにしていました。よろしくお願いします。

●細谷委員

細谷です。お久しぶりです。今さらですが、図書館作り運動に関わって35年になります。この図書館にいらっしゃる誰より古くから図書館に関わっていて、ここに中央図書館が移転した経緯なんか知らないでしょう、そもそも児童サービスコーナーにカウンターはなくて、私たちが要求したのに当初は受け入れてもらえなくてね、なんて話を若い職員にしたことがあります。かねてより、私たちは自費でこれだけ勉強してきているんだから、そういう市民運動サイドの市民を図書館はもっと上手に使うことを考えたらどうですかと、いつも対立じゃなくてうまく連携していきたいと、そう申し上げてきました。このところは、こういう風にお声をかけていただいて大変うれしく思っています。どうぞよろしくお願いします。

●事務局（千葉調整担当課長）

---事務局紹介---（省略）

## 5. 議題

### （1）座長選出

事務局より、河村委員を推薦。全員一致で選出。

●河村座長

2年前にも、皆様のご協力を得まして、都心にふさわしい図書館の議論をしました。今年度もよろしくお願いします。

### （2）資料説明

●事務局（根尾企画担当係長）

---資料説明---

- ・資料4は、都心にふさわしい図書館について、施設整備基本計画が出来上がってから、今日までの検討経過をまとめたもの。
- ・整備基本計画では、都心にふさわしい図書館の役割として、「札幌の魅力発信」「役立つ情報の提供」「都心の知的空間」の3つとし、市内に40か所以上ある既存の図書施設とは、一線を画した、市内唯一の図書館を目指すこととした。

- ・ 3つの役割を果たす機能として、「情報収集・閲覧機能」「展示・プレゼンテーション機能」「調査相談・支援機能」「高機能ホール・アートセンターとの連携」という4つの機能を持つものと整理。
- ・ 特徴は、レファレンス重視。役立つ情報の提供を十分行えるよう、文学や児童書は配架しない。市民がいつ来館しても十分閲覧できるよう、資料は館内での利用を原則。
- ・ 以上が、整備基本計画の概要。
- ・ 都心にふさわしい図書館は、複合施設の1階と2階に、アートセンターと隣り合って設置。1階で札幌の魅力発信、2階でレファレンス重視の図書館機能。1階は書架閲覧スペース、展示スペースや貸出返却カウンターを想定。2階は、書架閲覧スペース、レファレンスカウンター、ミーティングルーム、コワーキングスペースを想定。2階の手前が賑わいの空間、奥に行くにしたがって、静かな空間を演出したい。
- ・ このような施設であることを踏まえ、図書館内部で事業展開を検討してきた。
- ・ 札幌市図書館の今後の方向性としては、課題を抱える市民に対して、自ら考え、適切な選択ができるよう、役立つ情報を提供することがコンセプト。
- ・ 都心にふさわしい図書館事業展開には、3つの条件が必要と考える。
- ・ ①「図書館の豊富な情報」、②「関連機関との連携」、③「司書の専門能力の活用」
- ・ 中央図書館との役割分担
  - 【対象】 中央図書館：市民全般  
都心図書館：ビジネスパーソンや来訪者をはじめ都心に集う大人
  - 【提供資料】 中央図書館：長年にわたって収集した幅広い分野の資料  
都心図書館：魅力発信、ビジネス・くらしの課題解決に役立つ資料に特化
  - 【蔵書数】 中央図書館：88万冊  
都心図書館：6万冊。

中央図書館が、資料面をバックアップして一体的に機能させたい。
- ・ 都心図書館は、ビジネスやくらしに役立つ資料を中心に図書6万冊を収集予定。新聞、雑誌、電子書籍、視聴覚資料、データベースも力を入れて収集したい。
- ・ 具体的な事業内容を説明。
- ・ 「デジタル札幌大百科」編集  
図書館の持っている地域資料をデジタル化し、札幌の魅力に関するテーマに沿ってデジタルコンテンツを編集するもの。館内での展示、インターネット公開、学校教育での活用を想定。
- ・ 「仕事に役立つ資料・情報提供」  
ビジネス支援を念頭に置いた資料の提供。就職、転職、起業、資格取得・スキルアップ情報、経営・ビジネスの一般情報。
- ・ 「くらしに役立つ資料・情報提供」  
くらしの中で市民が抱えている課題（健康・医療、福祉・介護、教育・子育て、法律関係）

に対する資料の提供。ビジネスパーソンにとっても、夜に立ち寄って調べることができるという点で役立つと考える。

・「知的空間の提供」

いつ来館しても十分閲覧できるよう、資料は館内での利用を原則とするため、ゆっくり滞在して、調べものや読書ができるスペースを充実させる。図書館への飲み物の持ち込みや、1階のカフェに図書館の図書や雑誌を持ち込むことができるようにしたい。

・「展示・プレゼンテーション」

1階では、札幌大百科をはじめ、紙ベースの資料、ホールやアートセンターとの連携によって得た情報などを活用し、札幌の魅力を歴史や自然などテーマ別に、エピソードの紹介を交えながら展示。さらに、来訪者向けとしまして、パンフレットや観光ガイドに加え、歴史や背景がわかる情報を展示。

・「セミナー」

ビジネスを支援する各種セミナー、医療・健康、介護・福祉に関するセミナー、札幌の魅力を発信するセミナー、図書館資料の探し方、データベース活用セミナーなど。

・「調査相談・情報支援」

レファレンスサービス、レフェラルサービス、パスファインダーを含めた情報ガイドなどでレファレンス重視の図書館を実現したい。

・「各種専門機関と連携したカウンター」

ビジネス支援を念頭に置いたもの。起業や経営に関する専門機関の相談員などが、図書館で相談に応じるといったサービスを提供したい。

・「ホール・アートセンターとの連携」

ホールやアートセンターで作成したオリジナル作品について、台本や楽譜などを含めた資料を、三者で協議の上、分担して蓄積したい。

また、ホールやアートセンターの公演やイベントに際しては、関連する資料をテーマ展示したい。

### (3) 検討

●河村座長

都心にふさわしい図書館の複合施設で果たす役割が、札幌の魅力発信とレファレンス重視だということ、そして、その役割を果たすための条件についての説明だった。

都心にふさわしい図書館の整備から、順に議論してよろしいか。

●事務局（根尾企画担当係長）

事業内容のあたりを重点的にお願いしたい。

●細谷委員

調査相談機能に含まれているのかもしれないが、対行政サービスの表記がない。議員や札幌市役所の職員の利用を待っているだけじゃなくて、横浜市立中央の庁内行政情報サービス

のように、事業として対行政サービスを行うべき。

●豊田委員

同じく、行政サービスが抜けていると思う。市役所の中の図書施設と連携できないか。

●細谷委員

市役所の15階に議会図書室、2階に行政資料が並んでいる情報センターがある。

●江本中央図書館

市役所には議会図書室と、市民のための情報センターがあり、政策部門には、今までの調査検討した資料が整備されている。

都心にふさわしい図書館が行うくらし支援の中では、行政に関わる情報提供も行うし、市役所の職員に対して利用を促してもいく。ただ、この図書館は、あくまでも市民向けの施設として、仕事とくらしに関する情報を提供していく想定。

議会に対しては、管理運営基本計画を説明する中で、この図書館の役割や可能性を訴えていきたい。

●豊田委員

今の計画だけでも盛りだくさんなので、行政まで手を延ばさないで、とりあえず市民をターゲットにして始めても良いと思う。

ただ、まずは地域の図書館ネットワークをしっかりと固めることを意識すべき。道立図書館や大学図書館との連携もまだ弱いし、議会図書室などとも緊密に連携したらサービスの幅が広がるのではないか。

●細谷委員

2階の情報センターは、行政資料が並んでいるだけで、「こういうことを調べたい」と思っ  
て行っても、使いようがない。都心にふさわしい図書館が連携して、あそこでレファレンス機能を担えないか。議会図書室は、連携のイメージがわからない。

●猪熊委員

専門知識をきちんと調べようという話であれば、そういう時に中央図書館の価値がはっきり分かる。そのきっかけを都心部の図書館が担い、案内をすることができれば、都心と中央と地域の図書館の役割の分担が見えるのでは。

●豊田委員

図書館の司書が、議会図書室の中に出張するということはできないか。

●江本中央図書館長

札幌市は、それぞれの部局で政策に応じた福祉や介護、環境、清掃など分野ごとの政策目標を実現するために、事業を組み立てている。それぞれのスタッフがやっている話を、図書館で行政支援をするというとなると、かなり膨大な人数の職員を図書館に移す必要がある。

●豊田委員

それぞれの部局が行っている調査を図書館が行うのではなく、いろいろある調査資料を市民が使いやすいようにきちんと整理する仕事をしてほしい。

●江本中央図書館長

都心部に図書館ができて、調べものができるということであれば、活用する職員や議員が出てくる。ビジネスパーソンの多い都心なので、ビジネス支援という話になっているが、一方で、官庁も多いから行政支援を打ち出すまでいくかということ、そうではない。それぞれの部局が調べて、政策に反映するよう検討している。

●豊田委員

細谷さんがおっしゃった議員や行政職員を支援するサービスは、ちょっと待った方がいいと思うが、市民サービスとしての行政資料は重要。

たとえば、市民が自分の街の災害対策を調べようと思った時に、行政資料がきちんと揃っていて、予算や、今までの調査結果を見ることができるのはとても大事。それは、対議員や対行政ということではなく、市民のための行政サービスになる。

近くにある図書室に資料が揃っているのであれば、図書館員がより使いやすい形に整理し直すなどの連携ができないか。

●江本中央図書館長

市民の暮らしに役立つ情報ということで、例えば健康と介護について、これからの時代の中でどう自分の体を守っていくかという視点で、図書館が持っている関連資料や行政発行のパンフレットを展示するなどして必要な情報を提供していきたい。

●菊地委員

縦割り行政をいかになくして、横の連携にしていくか、これは永遠の課題。館長が仰っているのは、図書館が情報という切り口で、市民目線を持って、役所の横のネットワークをつくるということではないか。

例えばハザードマップを見たいとなったら、とりあえず図書館を入り口にしてそこからネットワークして、そして、町内会でどうするなどという話になるような動きが見えてくる。

最も大事なものは、議員が市民のためにどういう仕事をするのか、あるいは少数民族について勉強が足りないのであれば、なぜそういう議論が必要なのかという情報の入り口を、行政の縦割りではなくて横から入っていき、それをスピーディーに活かすこと。議員も一人の市民であり、市民の代表であると考え、細谷さんのご意見も豊田さんのご意見も、おそらくこの計画に含まれている。

●細谷委員

調査相談・情報支援機能という中に含まれているとは思いますが、「行政」という言葉を入れて欲しい。市民も行政も、図書館の役割を狭くとらえていく人が多いので、従来の図書館観をひっくり返すためにも行政情報は必要。

●河村座長

(2)の仕事や暮らしに役立つ情報提供というところの【暮らしに役立つ資料・情報の提供】の中には法律情報もあるので、行政資料を入り口として置いて、本庁舎に誘導できるような形はどうか。対象はもちろん市民であるが、行政資料も必要と受け止めていただきたい。

●事務局（千葉調整担当課長）

我々も、議会図書室を通じて議員の方々をバックアップしたいと中央図書館がオープンしてからずっと考えていた。また、細谷さんがおっしゃる行政サービスは、行政の中で図書館のプレゼンスを上げることにつながり、議会に対しても意味のあること。

一般市民に対してということでは、市民の目に触れやすいようにして利用してもらうよう見せ方が大切。行政情報については、計画の中でもう少し明確にしたい。

●細谷委員

予算の決定権を持つ人に図書館の可能性を知らせるという意味でも大切。

●河村座長

情報の提供の仕方ということで、検討いただきたい。

●豊田委員

アートセンターとの連携は、スタジオを使うということだけか。例えば、アートセンターの一角に美術系の本を置くとか、キッズスタジオの中に子どもの本を多くとか、随所に図書館と一体化したディスプレイの場所があるとより一体的になる。

●江本中央図書館長

具体的な連携の話として、これから協議したい。

●細谷委員

1階総合案内カウンターのすぐ左あたりに美術書を置くと、アートセンターの入口のすぐそばに図書館の書架があるという位置関係になる。

●豊田委員

カフェにちょっとした雑誌を置いたり、あちこちに本があると良い。

●事務局（千葉調整担当課長）

アートセンター側と、今後すり合わせたい。施設全体として、皆様のご意見を念頭に置きながらアイデアを練っていききたい。

●河村座長

共用部分をうまく活用していけば、本が移動できる。

大学図書館や県立図書館の先進的なところでは、パソコンが使えるコーナーと静かさを求めるコーナーが図書館の中にある。この図書館は、どうか。

●事務局（根尾企画担当係長）

2階は、手前が賑わいの空間で、奥に周囲とガラス壁で区切った静寂空間を作り、静かに読書できる場所を確保している。

●河村座長

運用で、この静寂空間では、パソコンは使えませんなどとすることはできるということか。

●豊田委員

こういうところこそパソコンを使いたくなるような気もする。

●河村座長

電源は自由に使えるか。

●事務局（根尾企画担当係長）

PC用としては、自由に使っていただく方向。

●菊地委員

静寂な空間もあった方が良い。そういう機能も必要。

●豊田委員

中央図書館との役割分担で、蔵書数6万を中央図書館でバックアップというのは、総合的なレファレンス機能は中央図書館が持ち続けるイメージなのか。それともビジネス系は、都心の図書館にまかせて、棲み分けするイメージなのか。

●河村座長

私の感覚は、中央図書館はいままで通りで、都心図書館は厳選6万冊。例えば本なら1年以内の新しいもの。新鮮な資料・情報と書かれているので、大学図書館で言えば、20万冊～30万冊も要らないという、**undergraduate library** という1～2年生用に厳選された5万冊が用意されているイメージ。なので、ここで何でもできるというのではない。

●豊田委員

札幌の魅力のスペースは、テーマが変わっていく感じの方が楽しい。都心図書館では、小説は置かないとなっているが、季節に一度くらい札幌の小説家の物を集めてみるのも良い。常設展にするとつらいのでは。

●事務局（千葉調整担当課長）

整備基本計画のセレクトライブラリーの発展形として、札幌に関するプレゼンテーションライブラリーとして考えていきたい。札幌デジタル大百科として、札幌の様々な情報を引き出せるデータバンクのようなものを作って、それを使いながら展示していきたい。

●菊地委員

基本的にはこの計画は、これまでの議論が活かされている。それで、デジタル大百科の編集には、市民の英知やノウハウをシステム的に取り入れるべき。行政から見ている魅力と市民が生活の中から見ている魅力には違いがある。

本屋は、極めてタイムリーに平積みの本を並べて売り出している。例えば災害が起きて、札幌はどうなんだといったときに、関連の資料なり、これまでの計画、今の計画が、図書館でタイムリーにわかると良い。何年も準備して展示するのも大事だが。

●事務局（千葉調整担当課長）

市民が欲しい情報を、きちっととらえて編集して出していくことが必要。そのためにも資料が整理されて、検索可能になっているということが重要。

●江本中央図書館長

市民の課題に応えるうえで、レフェラルサービスを行う際には連携機関につなぐだけではなく、その前の段階から、情報提供の仕方、支援の仕方を考えて連携しておかないと、有効なレフェラルサービスにならない。



先ほど出てきたタイムリーな情報提供の件や、そのほかに、退職後の市民の経験を活かすことなどについても、この資料の中で読み取りにくくなっているので整理していきたい。

●河村座長

この図書館に行って、相談して、関連機関や団体の紹介してもらおうというのは良い。今までの図書館では、自分のところで解決しようという姿勢があったので無理だった。

書店との連携とあるが、都心は最新の6万冊しか置いていないので、ここで新しい本を見てもらって、希望者には書店を案内するというのは今までになかったサービス。

●豊田委員

デジタル札幌大百科は、業者に丸投げして開発するのではなく、猪熊さんのオオドオリ大学など、地元と連携を強めた形で作るべき。

先日、賞を取ったサントリーの鳥の百科事典には、札幌・北海道の珍しい野鳥も入っている。このようにすでにできあがっているものも最大限活用すべき。

●菊地委員

50年後100年後を考えると、静止画、写真だけでなく、動画と音も残すべき。

8ミリなどで持っている個人もいる。

●豊田委員

市民が画像や情報を提供し、大百科作りに参加できると楽しいプロジェクトになる。

●猪熊委員

アートセンターと連動しながらまとめていって、共同でアーカイブできるのでは。

●猪熊委員

セミナーの講師やコーディネイトは誰がやるのか。

●江本中央図書館長

コーディネイトと企画は職員を想定。関係機関と協議しながら、テーマに合うような講師を見つけていきたい。

●菊地委員

丸投げでなく、司書が、企業なり団体なり、いろんなネットワークを活用することが大切。大きい広告代理店に任せると立派なものが出来上がり、見た目はいいけれども、それは長続きしない。

●猪熊委員

この図書館の中で生まれる会話が気になる。年月を重ねて、司書がチョイスした図書や、配架されている図書のおかげで起業したり、健康になったり、裁判のときに役に立ったりして、「ありがとう」という会話が見えたら、働く人もいきいきと働け、活用する側もまた行きたいと思える。平日の昼休みに都心図書館に行ってみて、休日には家族と地元の図書館に行こうとなっていけば良い。

会話が生まれる図書館は、今まではなかったが、これからは偶然性や、出会いから生まれる発想が重要。都心図書館では会話が生まれ、みんなの本棚であってほしい。

司書もカウンターでずっと業務をしているより、フロアで歩いている図書館であるべき。

●細谷委員

2年前の話のときには、可動性のある椅子・テーブルを多数配置して、個人でもグループでも利用できるスペースがあったはず。

●事務局（千葉調整担当課長）

これで言うと、コワーキングスペース。2人で使ったり、椅子を引き寄せて4人で使ってミーティングが始まったり、自由に空間を使ってもらおう。

●細谷委員

プロジェクターで画像を映しながら、何かができるようなのは。

●河村座長

アートセンターは、スクリーンをおろすこともできるのでは。

●事務局（千葉調整担当課長）

セミナーには、アートセンターのオープンスタジオも、コワーキングスペースも使える。

●河村座長

それが連携ということだと思う。

●江本中央図書館長

アートスタジオは、アートセンターが専有するのか。

●事務局（根尾企画担当係長）

協議して図書館側も使わせてもらう。アートセンターでイベントなどを行わないときは、開放しているという想定。

●菊地委員

空間をどう作るかは研究した方が良い。18世紀くらいからヨーロッパで行われたいわゆるカフェというのをモデルにしたら良い。哲学者がそこに来て、吟遊詩人じゃないですけど語るというもの。そこで集まって話をするなかで、そこから育ってくる人がいると良い。

●豊田委員

どうすればいいという答えは分からないが、しかけが必要。大学のラーニングコモンズも、今、曲がり角。本当だったらそこで刺激を与え合って、新しい発想だったり、何か動きが出てくることを期待したはずのスペースが、うまくいっている大学とうまくいっていない大学がある。ただのスペースにならないように、なにかしらの交流が生まれて、動きが出てくるような工夫が必要。

●細谷委員

図書館だから資料もそろっているし、この立地だったらNPOと連携するのも良い。オープンスタジオを市民が借りたり、施設の中の他の機関が借りることはできるのか。

●豊田委員

自分の作品を展示したい人に貸しますと書いてある。

●江本中央図書館長

申込みの手続きや料金も含めて、今後協議する。

●河村座長

ピンク色の波線のところに図書館の本を持っていけるということであれば、図書館の中にアートセンターがあるという解釈もできる。図書館が何かやるときに、アートセンターの施設を借りられるのは良い。

●猪熊委員

ソフト面について、アートセンターと一緒にやるというか、共同して一緒に考えるというのは有効。いろんな人が活用してくれるようになる。

●河村座長

一番良いのは、青い点線のところで仕切りがないこと。本を持ち歩けるので、利用者には全部が図書館というイメージを与えることができる。

逆にアートセンター利用者にとっては、自分たちが利用している施設の周りに関連資料があるということで、複合施設の良さが出ている。BDSを外においてくれたのが嬉しい。

●菊地委員

ある意味では画期的。利用者にとっては、仕切りは見えないので、カフェも図書館の中にあるように見える。

●豊田委員

もう少し、市民参加型を出すと良い。デジタル大百科作りにしても、コーナー作りにしても、セミナーにしても、市民も関わるといふところを出した方が良い。

●細谷委員

オープンの際には、市民参加型のオープニング事業が目白押しとなるよう、是非考えて欲しい。

●猪熊委員

図書館とアートセンターが、今のうちから歩み寄りながら考えていくことがより良い方向につながる。

●菊地委員

アートセンターが、具体的にどういうことをやるんだというのがわかると良い。

●事務局（千葉調整担当課長）

今日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。都心にふさわしい図書館は、市民交流複合施設全体のスケジュールと歩調を合わせながら進めていく必要がある。管理運営基本計画については、基本的な方向性は9月中を目途に決定する必要がある。

今回のご意見を踏まえて、9月中旬に第2回目を開催したいので、よろしくお願いします。

---日程調整---

第2回 9月11日（木）13：00～（研修室A）